

5 優秀集落営農組織

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
<p>おか 岡営農組合</p>	<p>鳥取市</p>	<p>平成 18 年 11 月</p>	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <p>①農業従事者の高齢化、後継者不足による農地の耕作放棄地化防止及び組合員の機械導入、委託費の削減を主目的に全農家 18 名の総意により設立。</p> <p>②当初は集落内での受託面積が少なかったため、近隣集落に積極的な営業活動を展開した結果、令和 3 年の受託面積は 10.9ha となった。</p> <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <p>①三組合（中山間直払、農地水、営農）の役員を兼務とし、経費節減、相互の連携強化、円滑な活動を行っている。</p> <p>②三組合連携による農道補修、水路目地補修、ほ場法面防草シート設置など、農業基盤の長寿命化を推進している。</p> <p>③集落内で後継者不在となった農地 90a を組合で管理し、鶏糞を主体とした飼料用米を低コストで栽培している。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>①組合農家の後継者不在（2戸）や農機更新（2戸）により組合への委託が進み、組合設立の目的である農地の耕作放棄地化防止が達成されている。</p> <p>②県、市の事業を積極的に活用し、農機の購入、活性化計画の策定・実施、東屋の建設など地域農業振興に寄与している。</p> <p>③平成 20 年に休耕田を活用したそば栽培を開始、収穫後にはそば打ち交流会を毎年開催し、集落活性化のための取組を積極的に行っている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①農業従事者の高齢化、後継者不在の増加により、作業受託量の増加が想定される中で、若手従事者の育成・参画が急務。</p> <p>②刈取り作業の効率化、軟弱ほ場に対応するため、高機能大型コンバインの導入、所要資金の調達が必要。</p>

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
農事組合法人 <small>おだ</small> 小田みなみ	岩美町	平成 22 年 2 月	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <p>①小田南部地区は、平成 9 年に完了した県営ほ場整備事業の受益地区で、小田、外邑、延興寺、池谷、黒谷集落の 5 集落で構成する地区で、ほ場整備完了を契機に、当該 5 集落で構成する「小田南部地区営農組合」を設立し、中山間地域等直接支払交付金の集落協定締結団体として、地域の農地を守る役割を担っていた。</p> <p>②集落協定農地から耕作放棄地を出さないよう、集落の営農環境を守っていこうという思いから、実働的に機能する当該農事組合法人を設立することになり、平成 22 年 2 月に法人を設立。</p> <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <p>①平成 29 年度から鳥取県認証の特別栽培米を栽培し、消費者が安心して食べられる米づくりに取り組んでいる。</p> <p>②令和元年度から新品種である「星空舞」の栽培を開始し、令和 3 年度は 3.5 ha で作付け。</p> <p>③有害鳥獣による被害を少なくするため、中山間地域等直接支払交付金を活用して防護柵(ワイヤーメッシュ柵)を設置している。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>①法人化して農地を組織的に運営することにより、有効活用が進んでいる。</p> <p>②農地中間管理事業を活用し、個人所有農地の法人への集積を行っている。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①組織体制を継続・強化していくため、後継者の育成を図ることが必要。</p>

組織名	所在地	設立年月	組織活動の概要
<small>さかえだ</small> 栄田地区活動組織	大山町	平成19年 3月	<p>【集団設立の契機と発展の経過】</p> <p>①「農地・水・環境保全向上対策」（現・多面的機能支払交付金）の活動組織として平成19年に設立し、農地法面の草刈り、水路の泥上げ、水路・農道の軽微な補修等を行っている。</p> <p>②「中山間地域等直接支払交付金」の活動組織として、耕作放棄の発生防止活動や水路・農道等の管理活動も行い、令和2年からはセンチピードグラスの導入による法面管理省力化にも取り組んでいる。</p> <p>③現在、栄田集落内には3つの任意組織が存在しており、いずれも主要メンバーは重複している。このうち「栄田地区活動組織」が総合調整窓口となり、他組織を指揮している。</p> <p>【集団活動の特徴と内容】</p> <p>①若手にも「皆で協力するもの」という意識・自覚が自然と醸成されているため、若手の出役が比較的多く、作業の目的を理解して積極的に取り組んでいる。</p> <p>②今後の高齢化と後継者不足を見据えて、周辺集落に先駆けて、令和2年から法面管理に西洋芝「センチピードグラス」を導入し、集落ぐるみで法面管理の省力化に取り組んでいる。</p> <p>【活動の成果】</p> <p>①皆が集まって共同作業に取り組むことにより、集落内の耕作放棄地防止と農地維持につながった。</p> <p>②集落ぐるみでセンチピードグラスの導入に取り組み、年間の草刈り回数が約半分に減り、省力化に繋がり、今後も集落内で導入拡大するだけでなく、近隣集落にも取り組みが広がる見込み。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>①世代交代を見据えた後継者育成が必要。</p> <p>②高齢化に伴い、さらなる省力化技術の導入が必要であり、ドローン等スマート農機の導入・活用を検討中。</p>